

オレオケミカルとバイオ燃料

オレオケミカル業界のなかでもバイオ燃料の占める情報の割合が日増しに増えている。日経新聞、朝日新聞といった大手マスメディアも連日のように報道している。日本ではいままで農林水産省が中心になって後押しをしていた訳だが経済産業省・資源エネルギー庁もやっと本腰を上げ、本年中には規格を決定。バイオディーゼルの5%添加を認める動きになってきている。

日本では規制緩和を先読みした無数の会社たちがバイオディーゼルの売り込みや企業化提案をあちこちで行なっている。それも数年前までまったく聞いたことがない会社が、である。昨今のこの異常ともいえるブームを小生が煽っているという輩もいるが、小生の手で煽れるようなものではない。

以前からバイオディーゼルの記事を弊誌に掲載しているのは提携しているヨーロッパのニュースソースからである。そしてここ数年間、これらのなかでバイオディーゼルの記事の割合が急増しているため弊誌も公平の原則でそれらをニュースとして読者にお届けしている。意図的にバイオディーゼルの記事を多くしているのではない。

バイオディーゼルの先進国であるヨーロッパではオレオケミカル業界、特にグリセリン業界が影響を受けているようである。大量にあふれ出た粗グリセリン。ヨーロッパのグリセリン精製設備が足りなくて粗グリセリンのまま市場に流れ込み粗グリセリンの市場価格は目を覆いたくなるほどである。ヨーロッパのオレオケミカル業界ではみんなでこの新規用途開発に協力している。しかし、日本でバイオディーゼルの売り込んでいる新興の会社たちは粗グリセリンの処理にまったく口をつぐんでいる。

日本のオレオケミカル業界は昔から閉鎖的であるとよくいわれている。脂肪酸をどこその商社が持込んだ。いくら値段を出したようだ。どこその日本のメーカーが怒っている、などなど……。しかし時代は変わって来ている。もはやバイオ燃料を日本から追い出すことは不可能であろう。これからはバイオ燃料からの予測される副産物に対して業界が一致団結して付加価値をつける研究をするべきである、と思う今日この頃である。

(水島 義和)